

櫻間 右陣（さくらま・うじん）

シテ方金春流能楽師 昭和三十六年、東京生まれ
人間国宝・櫻間道雄（みちお）の初男子孫、後を継ぐものとして師事し、
道雄急逝後は、伯父・櫻間金太郎（きんたろう）に師事。後に金太郎・道雄の
嗣子となり、第二十二代櫻間家当主。

四歳より稽古をはじめ、初舞台。

櫻間左陣（さじん）弓川（きゅうせん）と能楽界に名を残す櫻間家にて、
その伝統を継承するものとして演能活動が続けている。

平成十六年一月一日、櫻間家代々の当主名「右陣」を襲名。櫻間會・五耀会・
九州櫻間會を主幹。
稽古活動や講演活動などを通じて能の普及に努めている。

（公社）能楽協会会員 （社）日本能楽会会員
重要無形文化財総合指定保持者



Sakurama Ujin, Shite-Kata Noh Actor

Sakurama Makoto (later Ujin) was born in Tokyo in 1961 as the first grandson of Sakurama Michio, a Living National Treasure of Komparu Noh School. Makoto started his Noh training at the age of 4 under his grandfather, and made his first appearance on the stage at the same age. He was adopted as Michio's son to become his successor but Michio suddenly passed away when Makoto was still in his 20's. Then, his uncle, Sakurama Kintaro, took the role of Makoto's Noh teacher and adopted Makoto as his son. In 2004, Makoto succeeded the Sakurama family's great name "Ujin", which was the name of the father of Sakurama Sajin, one of the great Noh masters in the Meiji Period.

Today, Sakurama Ujin is the 21st family head of the Sakurama family. Ujin is currently a member of the Nohgaku Performers' Association and a holder of the Important Intangible Cultural Asset. He has taken the position as a director of the said association in the past. He has made a great achievement in Noh performance in Japan as well as in many foreign countries. He has been playing torchlight Noh performance at Shomyo-ji Temple in Kanazawa-Bunko for more than 20 years. This stage is extremely popular in this district and the tickets are sold out in a couple of days every year.

He has also played Noh in television dramas including Noh scenes such as in "Yashima" - a story about the battles between the most famous two leading samurai families, the Genji and the Heike in the middle ages; in "Nobunaga, King of Japan", which was broadcast by NHK; and also in "Takeda Shingen" and "Futari Shizuka". Furthermore, he has been invited as a guest speaker on radio shows.

Between his Noh stages, Ujin teaches Noh (dancing and singing) in Tokyo, Kanagawa, Saitama, Shizuoka, Niigata, Osaka and Kyushu, as well as at the Bungakuza in Tokyo and Dokkyo University in Saitama.

音楽特別共演アーティスト ヴァイオリニスト武田知奈津



日本人女性ヴァイオリニストの生みの親
と言われた小野アンナの弟子であった祖母
の手ほどきで4歳からヴァイオリンを始め
る。その後故若林暢、室内楽を Albert
Lotto 各氏に師事。東京音楽大学在学中に
女子弦楽四重奏団 Bloom Quartet 設立
メンバーとしてプロ活動を開始し、その後
女子弦楽アンサンブル Bloom Quartet &
Ensemble 総合リーダーとして東京文化会館でデビュー。
現在ソリストとして活動中。MusicInc. 専属アーティスト。
<https://chinatsu.jp> Instagram: @chinatsu.takeda

クリエイター & 音楽プロデューサー 南出卓



13歳から15年間英国ウェールズで過ごす。
王立ウェールズ音楽演劇大学卒業。在学
中から独学でコンサートや室内楽グルー
プのプロデュース、舞台演劇の作曲など、
英国内外で演奏を行う。2005年に拠点を
アジアに移し、インド交響楽団の設立や
カザフスタンの管弦楽団の団長を経て日本
に帰国。2009年 Bloom Quartet & Ensemble
を設立。近年はアーティストとして音楽付き朗読劇を数々
手がけ初演する。日本外国特派員協会名誉会員・委員、日本
アジア協会会員、ウィリアム・アダムス・クラブ会員、シテ
方金春流能楽師 櫻間右陣 顧問。Music Inc. 代表。
<https://sGuru.jp> Instagram: @suguru.minamide

音楽特別共演に向けて

能の「翁」のように、西洋クラシック音楽も元を辿れば
神への祈りとして発展してきました。もっと時代を遡り
まだ文明や言語すらなかった遙か昔、私たちの共通の祖先
にとって舞や音楽とはどのようなものだったのでしょうか。
そんなことを想像しながら今回「Creation・天地創造」を
創作しました。そして後半には西洋音楽の父とも呼ばれて
いる J.S. バッハの無伴奏ヴァイオリンソナタから1曲抜粋
でお届けしたいと思います。

クリエイター & 音楽プロデューサー 南出卓

Photographs & Flyer Designed by Suguru Minamide

櫻間 右陣

シテ方金春流能楽師
第二十一代櫻間家当主

舞台人生六十周年記念公演

能 松 風

狂言 鍋八撥

半能 石 橋

音楽共演

Creation

天地創造

独奏

J.S. バッハ 無伴奏ヴァイオリンソナタ
第二番ハ長調 BWV1003よりラルコ

THE 21ST HEAD OF THE SAKURAMA FAMILY

SAKURAMA UJIN

CELEBRATING HIS 60TH ANNIVERSARY AS SHITE-KATA NOH ACTOR

2026.5.31（日）
開演 13:00 開場 12:00
於 国立能楽堂
National Noh Theatre
渋谷区千駄ヶ谷 4-18-1（JR 千駄ヶ谷駅より徒歩約5分）

舞台人生六十周年記念公演に寄せて

四歳で櫻間道雄の「鞍馬天狗」の子方にて初舞台を踏み初仕舞「七騎落」を勤めて以来、令和八年四月で舞台人生六十年を迎えます。思えば長いような短いような六十年間でしたが、多くの方々に支えられ今があります。これまでお支え頂いた皆様への感謝を込めた舞台を多くの方々のお力を得て企画しお届け致します。

昭和の時代、金春の双璧と謳われた櫻間道雄師と本田秀男師。その教えを受け、跡を継いだ平成の双璧とも言える本田光洋師と櫻間金記師を迎え私の初舞台に因み鞍馬天狗と七騎落の仕舞を勤めて頂きます。昭和の双璧の石橋連獅子を能評家坂元雪鳥は「金春の石橋は流石に荒い」と評しています。その連獅子には及ぶべくもありませんが愛弟子の昂平と石橋を勤めます。櫻間の謡を存分に聴かせる松風を愛弟子の葉と勤めます。地頭には私の初名の一字を与えた眞也が挑戦を致します。石橋の地頭は春彦が勤めます。先達から受け継いだ教えを未来を担う彼等に伝えるのが私の使命で御座います。六十年は節目で有ると共に新たな挑戦の始まりでも有ります。今回、御縁を頂いております音楽プロデューサー南出卓氏、ヴァイオリニスト武田知奈津氏とのクラシック音楽コラボレーションにも挑戦致します。多くの方々の御高覧の栄を賜れますよう伏してお願いを申し上げます。

令和七年七月三十日

櫻間紋理右陣 拝

番組

音楽共演 Creation (初演) 櫻間 右陣 武田 知奈津 南 出 卓

天地創造

演奏 J.S. バッハ 無伴奏ヴァイオリンソナタ第三番 武田 知奈津

ハ長調 BWV1005 よりラルゴ

休憩 (十五分)

仕舞 七騎落 櫻間 金記

鞍馬天狗 本田 光洋

阪本 葉

櫻間 右陣

能 松 風 館田 善博

間

柿原 光博 藤田 次郎 曾和 正博 深田 博治

休憩 (二十分)

狂言 鍋八撥 野村 萬斎 野村 裕基 高野 和憲

阪本 昂平

櫻間 右陣

半能 石 橋 宝生 常三

連獅子

亀井 広忠 大川 典良 大倉 源次郎 松田 弘之

あらすじ (解説)

能 松風 (まつかぜ)

須磨の浦を訪れた旅の僧侶は所の者より在原行平と恋をした松風・村雨と云う二人の海女のお話を聞き哀れを催し印の松に弔いをする。日も暮れたので塩屋に宿を借りようと主を待っている二人の海女が潮汲みを終え帰ってくる。宿を借りようと案内をする旅人に初めは見ずばらしい塩屋だからと断る主であったが、旅人が僧侶と見て哀れに思い宿を貸す。僧侶は行平の和歌を引き松風村雨の跡を弔った事を話すと二人が涙を流して居るのに気付く。理由を訊ねると歌人(行平)が懐かしいと執心の闇浮の涙を流す。此れは此世に亡き人と名を尋ねると松風村雨と名を明かし行平との恋物語を語ります。

行平の形見の衣を取出し猶も恋物語を紡ぎます。が、松風は衣を身に纏い松こそ行平と執心の狂乱を現します。初めは松風の狂乱を止めようとする村雨でしたが共に狂乱します。松風は狂乱の舞(中之舞)や松に戯れる舞(破之舞)を舞い、僧侶に弔いを頼みます。

何時しか僧侶の夢は覚め村雨と聞いた音は無く松にそよぐ風だけが残ります。

初めに松風村雨が橋掛に登場して謡う眞之一声。歩ミ(次第の囃子事)で舞台に入り謡われる次第とサシ声。地謡による下歌、上歌。松風村雨と地謡の掛け合いによるロンギ。海女乙女達が謡う行平との恋物語(クドキ) 等等聞き所と云われる名調子の謡が続きます。高潮した松風の舞う中之舞、破之舞等見せ場も多く飽きさせない能松風。古人は飽きの来ない代名詞として「熊野、松風、米の飯」と評しました。

笛 小鼓、大鼓の三拍子が揃った謡の面白さをお楽しみ下さい。

狂言 鍋八撥 (なべやつぱち)

目代(小アド)が新しい市を開くにあたって、早々に来て一番目の店を出した者を市の代表者にして税を免れると高札を出す。それを読んだ羯鼓売り(アド)がまず一番乗りで現われ、まだ夜深いので少しまどろむことにする。そこへ鍋売り(シテ)がやって来て、先に伏せている者を見つけるが、先着を装って隣に寝入る。やがて目を覚ました羯鼓売りは隣で寝ている鍋売りを見つけて驚くが…

能 石橋 連獅子 (ちやつきようれんじし)

大江定基が出家して寂昭法師と名を改め、唐天竺の仏跡を巡り清涼寺を訪れる。橋を渡ろうとするのを諫められ橋の袂に佇んで居ると辺りは荘厳な雰囲気包まれる。文殊菩薩の使い、霊獣の白獅子(親獅子)が現れるとそれに誘われ赤獅子(子獅子)も現れ一面に咲く牡丹に戯れ勇壮な舞を舞い獅子の座に直る。

祝言性の強いこの演目は御目出度い折に披露される事が多い。道成寺 乱と並ぶ大曲で「披キ物」と云われて居て、重要無形文化財の指定を受ける上で習得が必須とされている。私が観客の前で初めて舞った曲でも有ります。楽屋内での役職による作法は厳格でシテ以外は床几(鬘桶とも云われる椅子)に腰掛る事は許されて居ませんが赤獅子はシテと見なされ腰掛が許されています。より祝言性を際立たせる為に前半の大半を省略した(半能)形式で上演致します。

小書「特殊演出(曲目より小さく書事に由来)櫻間家で石橋は連獅子で上演する事が普通で単なる石橋は稀。